

新潟工科大学 平成26年度活動記録



創立20周年を振り返って

学長 長谷川 彰

平成26年度、本学は創立20周年を迎えました。我々はこの節目の年を「第2の開学」と捉え、新しい時代にふさわしい大学づくりに取り組んできました。

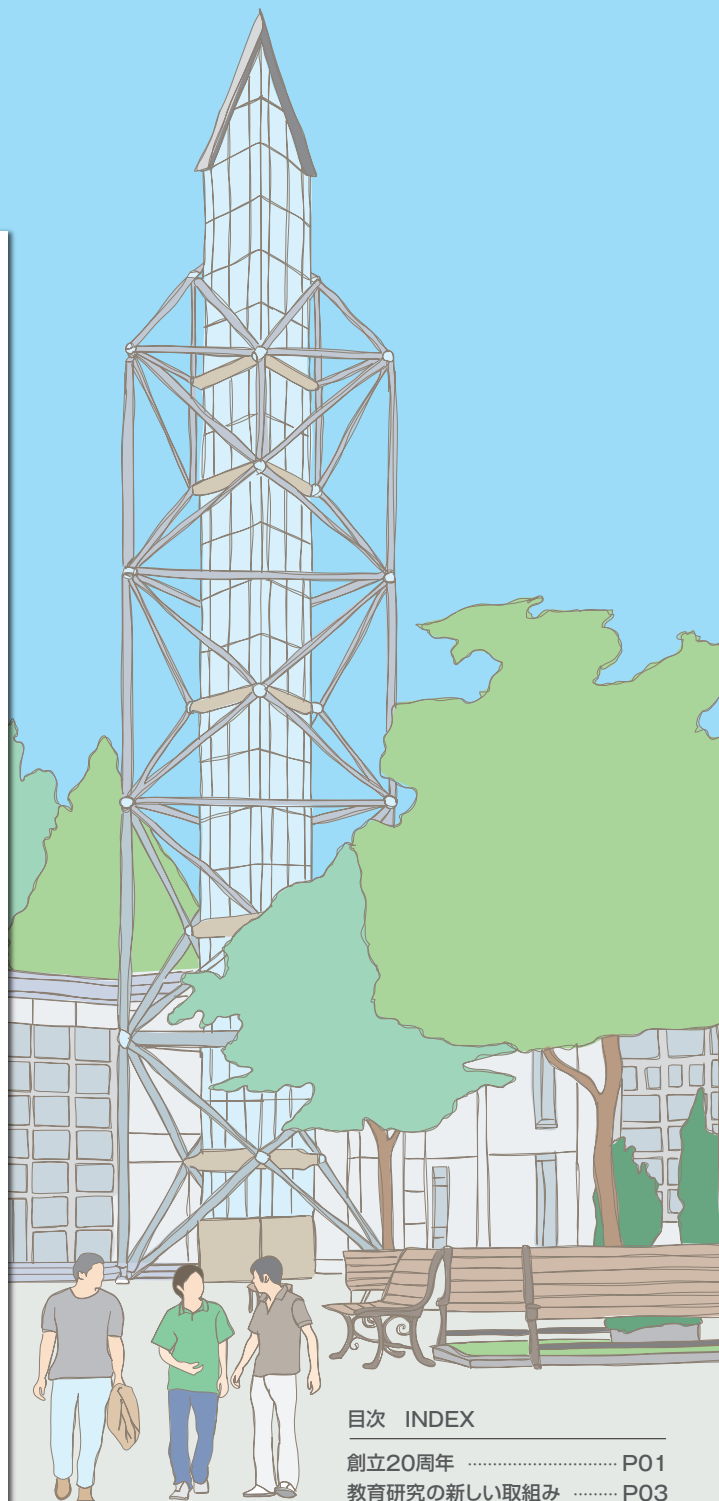
はじめに、抜本的な教育改革を進めた結果、平成27年4月から新しい総合学科として3学系・8コース制の「工学科」を発足させ、分野横断型の教育課程を提供することとしました。一方、既存4学科については、平成27年度から学生募集を停止しますが、在学生在が全員卒業するまで存続させます。

また、これまで積み上げてきた教育研究の実績については、第三者評価機関（大学基準協会）による審査を受け、評価基準に基づく適合認定を受けました。（認定期間：2015～2021年度）

新たな取組みとしては、現代の技術者に必要な専門力と人間力をしっかりと身につけてもらいたいと願い、教育の質的転換を目指しつつ、徹底的に学ぶことのできる環境の整備を進めています。平成26年度文部科学省の大学教育再生加速プログラム事業に選定されたことを踏まえ、学修成果を可視化して学生と教員が情報共有し、学びと教への改善に活かす教育システムの構築に着手しました。

学修環境の整備・充実については、教育センター及び図書館の改修を行いました。また、学生食堂を全面的に改修するとともに、学生サービスの一層の向上を目指して事務室の移設を行いました。さらに、4月からは三条・長岡地域と大学間を結ぶ無料通学バスの運行を開始し、通学の利便性向上を図ります。

学生の皆さんは、リニューアルされた学修環境を存分に活用し、伸び伸びと学んでいただきたいと思います。



目次 INDEX

創立20周年	P01
教育研究の新しい取組み	P03
(平成26年度採択事業)	
教育活動	P05
学生生活	P07
学生の表彰	P09
地域貢献	P11
産学交流	P12
就職支援	P13
Information	P15

○ロボカップジャパンオープン2014 レスキューロボット実機リーグ柏崎

本学及び海外からの1チームを含む12チーム75人が参加し、5月4日(日)～6日(火)の3日間熱戦が繰り広げられました。

このレスキュー実機リーグは、被災現場をモデルとしたフィールド内にいる被災者の情報(状態・場所など)を遠隔操作又は完全自律型のロボットを使用して調査し、その精度を競う競技です。期間中は競技の他、参加チームによるポスターセッションも行われ、本学のチームは3Dプリンタを使った部品製造など独自の取組みが評価され、奨励賞を受賞しました。



参加者全員で記念撮影



奨励賞を受賞



○記念特別講演会

5月15日(木)に新潟市で記念特別講演会を開催しました。本学と同じく創立20周年を迎えた新潟工科大学産学交流会(p15参照)との共催により、講師に(独)宇宙航空研究開発機構(JAXA)宇宙科学研究所の川口淳一郎氏を迎えました。講演会では、小惑星探査機『はやぶさ』のプロジェクトマネージャを務めた際のエピソードや、人材育成に関する多くのテーマについて貴重なお話をいただきました。



JAXA 川口氏による特別講演

[創立20周年]

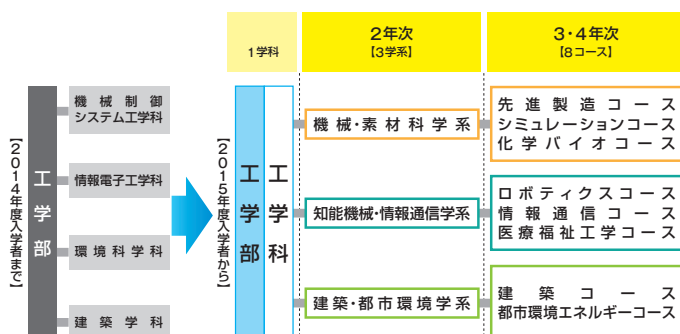
新潟工科大学は、平成7年4月、県内製造業を中心とする多くの企業の熱い思いによって、県内初の工科系私立大学として設立されました。平成26年度、本学は開学20年の節目を迎え、「第2の開学」と位置づけ、将来を見据えた新しい大学づくりに取り組んでいます。

第2の

大学改革

○「工学科」新設とICT教育環境の充実

平成27年4月から新しい総合学科として「工学科」を発足させ、3学系・8コース制を導入し、分野横断型の教育課程を提供します。“深い学び”から“広い学び”まで、希望をかなえるフレキシブルなカリキュラムを提供します。また、県内大学では初の取組みとして、平成27年度入学生からタブレット端末を1人1台無償貸与します。教育・学生生活の支援ツールとして活用し、学内のICT教育環境が充実します。



○施設リニューアル

創立20周年を記念して、学内の設の充実を目的に学生食堂、図書しました。学生アイデアコンペな学生がより快適な大学生活を過ごす。また、学生の動線に配慮して、密接な事務部署を南棟に集約し移入学から卒業(就職)までのワンス



審査委員による質疑

○工科大祭と大学開放

6月21日(土)、22日(日)に「第19回工科大祭」を開催しました。創立20周年に合わせ2日間に拡大しての開催となり、両日あわせて約3,000人が来場しました。また、同時に「大学開放」を開催し、各研究室の活動を一般の方々に知ってもらうよい機会となりました。



○記念式典

9月20日(土)に記念式典を挙行了しました。スライドで開学からの20年を振り返り、来賓による祝辞、同窓会から記念品(電気自動車)の贈呈の他、本法人からこれまでの支援に感謝し、産学交流会と同窓会に感謝状を贈呈しました。

式典終了後は施設見学、記念祝賀会が行われ、盛会に終了しました。



来賓祝辞(森邦雄副知事)



古泉理事長式辞



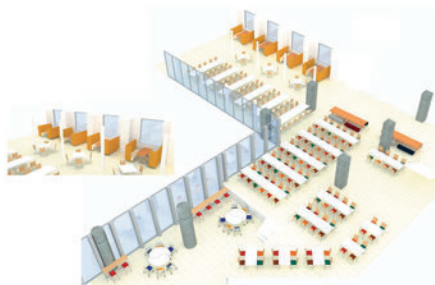
同窓会から記念品贈呈

開学へ

第2の開学に向けた
新しい大学づくり



学生生活環境の改善と福利厚生施設、教育センターをリニューアルを通じて学生の意見も取り入れ、せる環境を提供します。証明書発行や就職相談など学生に設しました。学生の総合窓口としてトップサービスを提供します。



学生食堂(イメージ図)

○通学環境の改善と充実

平成27年4月から新たに三条・長岡地域と大学間を結ぶ無料直通バスを1日4便、また、柏崎駅と大学間を結ぶ無料路線バスを1日4便運行します。経済的負担が軽減されるだけでなく、いままで以上に快適に自宅通学することが可能となります。

直通バスを利用する場合



路線バスを利用する場合



乗継バスを利用する場合



教育研究の新しい取組み (平成26年度採択事業)

1. 「大学教育再生加速プログラム」に採択（県内大学の採択は本学のみ）

新潟工科大学は、平成26年度文部科学省「大学教育再生加速プログラム」(Acceleration Program for University Education Rebuilding <通称：AP事業>) に、県内大学では唯一の採択を受けました。

3つの申請テーマの内、本学は「学修成果の可視化」に申請し採択されました。この事業により、学生を育てる大学オンリーワンを目指し、実感、成果、戦略を得られる学修成果の可視化システムを確立し、これまで文部科学省の就業力育成支援事業等で実績のあるアクティブ・ラーニングに加え、一貫した工学教育プログラムと連動させ、学士としての質保証を図ります。

「大学教育再生加速プログラム」とは

平成26年度の新設事業で、教育再生実行会議等で提言された国として進める改革の方向性のうち、テーマ(1)「アクティブ・ラーニング」、テーマ(2)「学修成果の可視化」、テーマ(3)「入試改革・高大接続」を行う取組みを重点的に支援するものです。

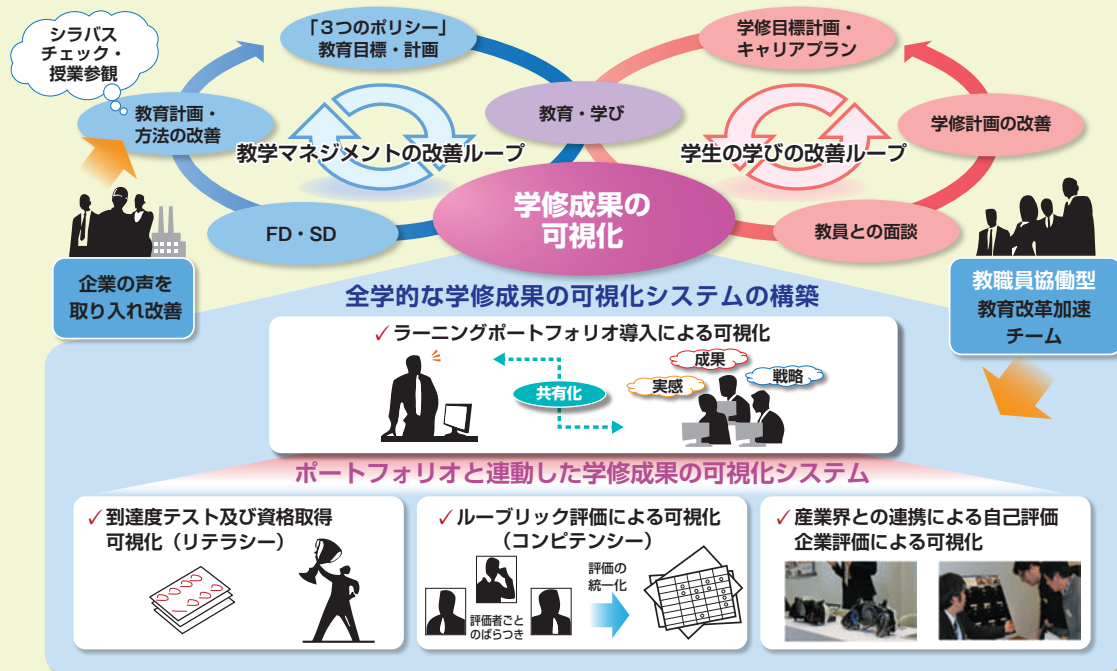
・【採択状況<3テーマ合計>】

申請250件 採択件数46件（採択率：18.4%）

・大学教育再生加速プログラムの概要

文部科学省HP：http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/ap/

○事業の全体像



○取組みの特徴

(1)ラーニングポートフォリオを導入します。

学生が「実感・成果・戦略」を得られる要素を備えたラーニングポートフォリオを整備します。

【実感】

成績、到達度テストなどに基づき学修の伸長を常に感じられる

【成果】

過去のレポートを常に参照できる → 次のレポート執筆に活かせる → 振り返りへの活用

【戦略】

得意分野の伸長、不得意分野の克服の戦略（学修計画の修正）立案に寄与できる

(2)教育改革を進め産業界や地域が求める人材を育成するため「教学マネジメント」と「学生の学び」の2つの改善ループを構築します。

教学マネジメントの改善ループ

大学全体の教学マネジメントの改善ループを以下のとおり確実にまわし、教育改革をすすめます。

- ①3つのポリシーを基軸に教育目標・計画を立案する。
- ②シラバスに基づき教育を行う。また、蓄積した学修成果や学生の自己評価をもとに、個々の立ち位置を学生と共通認識する。
- ③FD・SDを実施し、教職員の教育技術向上と認識の共有を図る。
- ④産業界のニーズを反映し、また授業改善報告書などと連携したポートフォリオに基づき教育計画・方法の改善を行う。

学生の学びの改善ループ

学生の学びに関する改善ループを以下のとおり確実にまわし、教育改革をすすめます。

- ①自己の学修目標・計画を立案する。
- ②学修を行い、学修成果を蓄積する。また、ルーブリック評価・到達度テスト・産業界との連携による自己評価などで可視化された学修成果を認識し、自分の立ち位置を把握する。
- ③学修成果・評価をもとに教員と面談を行い指導を受ける。
- ④自己の学修成果や面談結果をもとに、得意分野の伸長・不得意分野の克服ができるよう学修計画を改善する。

2. 授業収録配信システムの導入

学生の主体的な学びを引き出し、地域で活躍する中核人材の育成に資するため、さらに社会人の学び直しや地域の方々の生涯学習のプログラム構築を目的に映像配信システムを整備しました。

学生の主体的な学びを促すにはアクティブラーニングの導入や効率的な授業や実験・実習が必要です。そのため、例えば実験の手順書を映像で配信するなど、自発的予習・復習を可能とした学修効果を高めるシステム構築が必要です。

本システムの導入により、PBL実習や双方向授業、授業内でのグループワークを効率的に実施することにより、地域社会が求めるコミュニケーション力を兼ね備えた技術者を育成します。

本事業は、平成26年度文部科学省の「私立大学等教育研究活性化設備整備費補助金」の採択を受けて整備しました。



3. 研究事業の採択

本学では、産業界との連携などの特色・特徴を活かし、さまざまな研究事業の採択を受けています。

【主な採択事業】

(1)経済産業省 戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン事業）

<研究タイトル>

「VOC排出量削減と塗装コスト削減を同時に実現する
『泡と微生物を利用したVOC高効率捕集・高分解塗装ブース』の開発」
(本学の担当：泡による捕集及び微生物による分解の効率化等)

<中核機関>

公益財団法人新潟市産業振興財団（新潟IPC財団）

<担当教員>

竹園 恵 教授（環境科学科）



竹園教授（右）

(2)経済産業省 医工連携事業化推進事業

<タイトル>

「機械的強度と弾性率を部位毎に最適化させた新素材活用による
新たな人工股関節ステムの開発と事業化」
(本学の担当：機械的強度の生体力学解析)

<中核機関>

公益財団法人にいがた産業創造機構

<担当教員>

原 利昭 副学長（機械制御システム工学科）



原副学長（中央）

(3)環境省 環境研究総合推進費

<タイトル>

「水銀の全球多媒体モデル構築と海洋生物への移行予測に関する研究」
(本学の担当：大気中水銀の連続観測によるモデル検証)

<中核機関>

独立行政法人国立環境研究所

<担当教員>

福崎紀夫教授（環境科学科）



福崎教授（左）

キャリア形成教育の取組み

新潟工科大学は、「キャリア形成教育の一層の充実」を平成20年度から進めてきています。特に、平成21年度以降は、経済産業省「体系的な社会人基礎力育成・評価システム開発・実証事業」、文部科学省「就業力育成支援事業」、「産業界のニーズに対応した教育改善事業」の採択を受け、教育プログラムを構築しキャリア形成教育の取組みを行っています。これらの取組みを通じて、専門教育、教養教育、キャリア教育を実践型カリキュラムで体系的に行い、技術者として就業するために必要な「専門力」と「人間力」を育成します。

実践型カリキュラム（工学プロジェクト、PBL実習など）

工学の専門教育

教養教育

キャリア教育

新潟工科大学が育成を目指すのは、
専門力だけでなく**人間力**をも身に付け、
実践的に活躍できる**技術者**です。

挑戦力
アクション

コミュニケーション力
チームワーク

人間力

創造力
シンキング

(1) キャリアデザイン

「キャリアデザイン」は、自らの生き方について展望を持ち、社会人・職業人として求められる能力を習得することを目的としています。



<キャリアデザインⅠ>

入学後の早い段階から、自らのキャリアについて考え、将来の目標を持ちます。他人に自分の考えを伝える力を、1分間スピーチ、グループワークなどで養い、自分の考えを伝えられるようにします。



<キャリアデザインⅡ>

プレゼンテーションの基礎知識を習得し、業界、企業、職種の理解を深めて、自分のやりたいことに結びつく企業を見つけられるように導くことを目的として行います。



<キャリアデザインⅢ>

自分の適性を知るとともに、職場で必要となる基礎知識やマナーを習得することを目的として行います。

(2) 工学プロジェクト（学内企業実習）

通常のインターンシップと違い、企業人が大学に出向き、学生が1日社員としてグループワークを行います。企業から与えられた課題を学科・学年混在グループで解決し、社会に出た後も活躍し続けられるための能力を身に付けることを目的とします。平成26年度は3社から協力をいただき、54人の学生が取り組みました。

【工学プロジェクトの参加企業とテーマ】

- ①株式会社北村製作所
「未来のトラック物流を考えた時に、必要とされる配送車（トラック）」
- ②株式会社コロナ
「モノづくりの魅力や製造メーカーで働くことの面白さや、やりがい伝えるための入社案内」
- ③一正蒲鉾株式会社
「商品生産ラインの省人化の検討／コストを抑えた省人化」



パンフレットを見ながら課題の説明



KJ法を用いて検討している様子

(3) PBL実習 PBL…Project Based Learning (課題解決型学習)

地域や教員の課題に対して学生がチームを組み、主体的・実践的に課題解決を目指します。これにより、挑戦力・創造力・コミュニケーション力等を育成します。

平成26年度は以下の6テーマに35人が取組み、2月26日(木)に成果発表会を行いました。

【PBL実習のテーマ】

- ①実用的な電子回路プリント基板の設計と回路製作
- ②災害時の活用を目的とした小型水力発電システムの開発
- ③地域活性化に役立つITビジネスプランの立案
- ④本学食堂排水からのn-ヘキサン抽出物質排出量の実態把握とその低減化対策の提案
- ⑤デザイン性に優れた防風フェンスの提案と効果の検証
- ⑥自律移動ロボットを用いた教材の企画・開発

②災害時の活用を目的とした小型水力発電システムの開発

昨年度に引き続き、情報電子工学科・佐藤栄一教授による指導の下、柏崎工業高等学校電気科(防災エンジニアコース)及び地域の関係者と協同で取組みました。11月19日(水)には、柏崎市内で水路に設置して実証実験を行いました。



水車制作の様子



実証実験の様子

(4) 産業と大学・職業実習

「産業と大学」は、3年次の必修科目で企業の第一線で活躍する経営者や技術者を講師として、創業から発展に至る経緯、企業の社会的役割、技術的な特色等について講演いただき、自己のキャリア形成に対する意識を高めるとともに、人生観や経営哲学を学びます。

「職業実習」は3年次の夏期休業中に約2週間、企業や官公庁などで実社会のものづくりの現場に触れ、大学で学ぶ工学知識との関連を知るとともに、今後の学習の方向性を認識することを目的として行います。

最近では、課題解決型(PBL)のインターンシップを取入れ、これまで以上に人間力を高めるためのプログラムを実施しています。



職業実習の様子

(5) キャリア教育News Letter : Step Forward (～職業人育成への取組～) の発行

本学の取組みをわかりやすく伝え、成果の社会還元を目的として、平成26年度から情報紙として“Step Forward (～職業人育成への取組～)”を発行しました。また、これまでの取組みは本学のホームページにも掲載されています。



Step Forward (～職業人育成への取組～)

本学専用ページ
<http://www.niit.ac.jp/SHUGYO/index.html>

創立20周年

教育研究の新しい取組み
(平成26年度採択事業)

教育活動

学生生活

学生の表彰

地域貢献

産学交流

就職支援

インフォメーション

1. 高柳町での商品デザイン～デザインが繋ぐ地域の活性化～

建築学科1年次の授業でデザインコンペを実施し、グランプリとなった作品を商品化するという企画が、柏崎市高柳町商工会、柏崎信用金庫と本学のコラボにより、2年連続で実現しました。

1回目（平成25年度）は、日本酒のラベルでデザインを競い、グランプリとなった作品を使った日本酒「きつね参り」が昨年商品化され、6月のえんま市や工科大祭で販売されたほか、本学の創立20周年記念式典でも記念品として使用されました。

2回目の平成26年度は、同地域の特産品などを販売する際のショッピングバッグのコンペを実施。1月25日(日)に公開審査が高柳町じょんのび村で行われ、宗村悠雅さんの作品「伝える袋・伝わる袋」がグランプリを獲得しました。「高柳の地図をあしらい、人から人へと伝わる、来て見て感じるきっかけづくりの機能」をもたせたという作品は、高柳の魅力を多くの人にPRするためのグッズとして活用される予定です。



1月の表彰式 左から3人目が宗村さん



日本酒「きつね参り」



伝える袋・伝わる袋

2. まちかど研究室

新潟産業大学と共同で運営する「まちかど研究室（通称『まち研』）」は、平成26年度もさまざまな取組を行いました。えんま市では、商品化された「きつね参り」を販売し好評をいただきました。また昨年度に引き続き、七夕キャンドルナイトやクリスマスライトアップなどの年中行事も商店街で実施しました。まち研の認知度が上がるにつれ、市内各所からさまざまな活動への参加依頼が寄せられるようになり、柏崎中央地区の「景観懇談会」や柏崎リーダー塾主催の「異業種交流会」にも学生有志が参加しました。

“柏崎の祭り”をテーマに写真募集した「第4回柏崎最高プロジェクト」では47点の作品応募があり、新潟工科大学賞には「お獅子が来たよ!」が選ばれ、長谷川学長から表彰状と副賞が手渡されました。



えんま市で「きつね参り」を販売（6月）



七夕の様子（7月）



柏崎最高プロジェクト表彰式（11月）



まち研のメンバー

3. たる仁和賀に参加

7月25日(金)に、柏崎の夏の風物詩である『ぎおん柏崎まつり・たる仁和賀』が開催され、昨年度に引き続き、本学からも神輿で参加しました。今回は、中国とモンゴルの留学生を含む学生と教職員の53人が、揃いの法被姿で「ソイヤ! サア!」と大きな掛け声をかけながら、柏崎のメインストリートを威勢よく練り歩きました。



4. 軽音楽部がアコースティックライブ

軽音楽部のアコースティックライブが5月、10月、12月の3回、学生食堂で行われました。ギター、電子ピアノ、電子ドラムなどの楽器で4組が演奏を行い、日頃の練習の成果を披露しました。夕方からの開催でしたが、多くの学生たちが足を止めて、聴き入っていました。特に、12月のライブはクリスマスイルミネーションの中で幻想的に行われました。



10月のライブより



クリスマスライブ

5. 留学生が高校生と交流

10月22日(水)、柏崎工業高校1年生と留学生の交流会を行いました。同校が「県内大学留学生ふれあい事業」として、異文化交流を通じて生徒の知見を広げることを目的として実施したもので、中国人留学生2人、モンゴル人留学生4人の計6人が、生徒との混成チームでバレーボールやウェルカムボードの贈呈などを行いました。初めはお互いに緊張していましたが、スポーツを通じて徐々に緊張がほぐれていきました。

この交流会は、お菓子作りやインタビューなど形を変えて、12月までに4回実施されました。



6. 柏崎に関する研究発表会

2月26日(水)、今回で13回目となる、新潟工科大学と新潟産業大学の学生による「柏崎に関する研究発表会」(主催: 柏崎商工会議所総合建設部会、一般社団法人新潟県建設業協会柏崎支部)が柏崎商工会議所大研修室で行われました。

本学と新潟産業大学の学生が、卒業研究や事業など、この1年間に取り組んだ研究の成果を、スライドを使いながら発表しました。会場には一般の方々や建設業界、大学関係者など120人が訪れ、学生たちの斬新な発表に熱心に聴き入っていました。



7. 環境活動推進学生会の活動

環境推進学生会のメンバーを中心に、学外では4月と5月に海岸清掃、10月に植樹活動に参加しました。

学内では平成25年度に引き続き「緑のカーテン」を植栽し、室内環境の変化を計測しました。

新たな取組として、プラスチック製カップを再利用したオブジェを制作し、学生ホールに設置しました。同会が大学祭で毎年大量に廃棄されるプラスチック製カップに着目し、「エコ」と「アート」を融合してリサイクルへの関心を高めることを目的に制作したものです。

さらに、12月には県内大学と合同でキャンドル・ナイトを開催。学内をクリスマスのイルミネーションで鮮やかに彩りました。



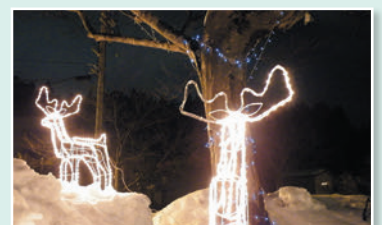
海岸清掃 (4月)



植樹 (10月)



カップオブジェ



クリスマスイルミネーション (12月)

1. 卒業設計コンクール金賞

5月に開催された「JIA（日本建築家協会）新潟県内卒業設計コンクール2014」において、大学院博士前期課程1年次 小池健太郎さんの作品「終の千里」が「金賞」を受賞しました。

出身地の長岡市山古志で、中越大震災後に行われてきた「賽の神」を建築として残すことを命題とし、祭りに関わる地元の人たちの繋がりやコミュニティを維持し、集落を存続させたいとの願いが込められました。



プレゼンする小池さん（中央）

2. 北信越地区新人合同設計展審査員賞

8月23日(土)、24日(日)の2日間、富山大学五福キャンパスで開催されたTAMAGO展（北信越地区新人合同設計展）において、建築学科3年次福島啓奨さんの作品「near natural」が「加藤雅明賞」（審査員賞）を受賞しました。

既存の集合住宅のカタチを乗り越えるものを建築として表現し、自分の建築に対する考え方を信じてまとめあげたこと、発想のユニークさなどが評価されました。



3. 構造コンテストで連続入賞

9月20日(土)に行われた、第5回構造模型コンテスト（主催：日本建築構造技術者協会（JSCA）新潟）において、建築学科五十嵐賢次助教の研究室に所属する星野淳史さん、小林隆稔さん、高津謙さんの3人で結成したチームがJSCA特別賞を受賞しました。

模型の形状、部材配置などがJSCA会員の玄人受けするモデルとして評価されました。

また、同チームは11月28日(金)に行われた、JSCA主催の「超軽量構造コンテスト」でも計量5位、デザイン等を考慮した総合評価4位となり、佳作に入選しました。

この大会は、1mスパンで1kgの重りを吊り下げる構造物の軽量化を競うもので、全国から98作品の応募があり、予選を通過した実務者12チームと本学を含む学生3チームの計15作品が、重量計測と載荷試技、プレゼンテーションによる公開審査（本選）に臨みました。

「吊りトラスの最適解」で臨んだ本学チームは、レベルの高いコンテストで入賞することができ、日頃の研究活動の成果として満足のいく結果となりました。



模型を制作する3人



前列3人が受賞者（9月）



左から五十嵐助教、高津さん、星野さん、小林さん（11月）

4. ソーラーラジコンカーコンテスト優勝

8月2日(土)に石川県白山市で行われた全国ソーラーラジコンカーコンテストin白山のオープンクラスで、本学学生と卒業生を含むチーム「GTY」が優勝しました。

大会は、主催者から支給されたソーラーパネル3枚を搭載した車両を遠隔操作して順位を競うもので、学生ら3人の出身高校の恩師と出場したGTYは、持ち前のチームワークで勝ち上がり、並みいる強豪を撃破して見事勝利を掴み取りました。



チーム「GTY」のメンバー

5. 電子情報通信学会専門委員会賞

10月2日(木)、3日(金)に開かれた「電子情報通信学会 磁気記録・情報ストレージ研究専門委員会」において、大学院博士前期課程2年次の片山拓人さんが、同研究会の委員長賞を受賞しました。これは、特に優秀と認められる講演に与えられるもので、受賞題目は「高周波アシスト磁気記録ヘッドのSTO発振解析シミュレーション」でした。



6. 技能検定で表彰

機械制御システム工学科4年次の桑原豊さんと茨木郁也さんの2人が、技能検定(国家検定制度)の機械保全一機械系保全作業3級に合格し、12月4日(木)に成績優秀者(1位・2位)として表彰されました。

技能検定は、技能に対する社会一般の評価を高め、働く人々の技能と地位の向上を図ることを目的として、職業能力開発促進法に基づき実施されています。3級の合格者には、都道府県知事名の合格証が交付され、「技能士」と称することができます。

また、新潟県では技能競技大会を兼ねて実施しており成績優秀者を表彰しています。



左：茨木郁也さん、右：桑原豊さん

7. 留学生が懸賞論文で受賞

柏崎中央ロータリークラブ2014年度留学生懸賞論文で、中国のハルビン理工大学から編入学した、機械制御システム工学科4年次の孫小雨さんが優秀賞を受賞しました。

論文は「留学生からみた柏崎～エネルギー問題～」と題し、柏崎でも生産される天然ガスの石油に対する優位性を取り上げ、天然ガス車普及の必要性について考察しています。



1. かしわざき市民大学

地域への知識還元の一環として、柏崎市が主催する「かしわざき市民大学」へ講座を出講しました。

前期は「生活を潤す科学技術を大解剖!～家電、パソコン、環境、エネルギー～」と題して、情報電子工学科の4人の教員が、電気電子や情報通信の最新の話題について解説しました。

後期は教養系の村上世津子准教授が、「ようこそシェイクスピアの世界へ～悲劇『マクベス』の魅力～」と題して、時代や国境を越えて人々を魅了し続ける作品の魅力を分かりやすく解説しました。



渡邊壮一准教授 (6月)

2. シミュレーションセミナー

シミュレーション技術を地域に普及させることにより、地域産業を活性化することを目的とした「シミュレーションソフトを活用した実習セミナー」を、平成25年度に続き開催しました。平成26年度柏崎市「大学・地域連携推進事業」として実施しており、入門編(10月7日(火)から4回)及び中級編(10月31日(金)から3回)を、本学のシミュレーション実習室で行いました。

入門編は機械制御システム工学科の笹川圭右助教が講師を務め、解析ソフト「Abaqus (アバカス)」を使用して、どんなことができるのかを事例を示しながら説明し、基礎的な実習体験を行いました。

中級編は、(株)メカニカルデザインの大井秀哉氏を講師に招き、Abaqusによる基本的な解析手法から実践的な解析手法を学びました。



入門編の様子 (10月)

3. 青少年のための科学の祭典

毎年恒例となった柏崎刈羽大会は春と秋の2回行われ、春は6月21日(土)に、工科大祭と同時開催で2,100人が来場し、11月15日(土)に開催された秋の大会には1,500人の人出で賑わいました。

また、新潟県大会は2月7日(土)、8日(日)にハイブ長岡で行われ、両日で14,000人の大盛況となりました。

いずれも学生と教職員が実験の指導にあたり、子どもたちに科学の楽しさを体験してもらいました。



実験の様子 (6月)



指導する学生たち (11月)

4. フィールドロボット工学研究室の活動

機械制御システム工学科のフィールドロボット工学研究室(指導教員:大金一二准教授)は、学外でのイベントへ積極的に参加しました。

9月20日(土)、21日(日)は「来て、見て、学ぼう!みんなの防災フェア2014」(長岡市)で、長岡技術科学大学とともにレスキューロボット(災害対応ロボット)の操作体験ブースを出展しました。

9月27日(土)には新潟県央工業高校で行われた、未来をつくるスペシャリストの祭典「工業教育フェスタ」にレスキューロボットと3Dプリンタを展示しました。3Dプリンタは最近注目されている製品とあって、訪れた人は加工部分を食い入るように見つめていました。



工業教育フェスタの様子

産学交流

1. 地域別産学交流会

地域産学交流センターでは、企業との共同研究など産学連携の推進を目的に各地域でさまざまなイベントを開催しています。平成26年度は初の試みとして10月17日(金)に佐渡市(「島の応援団」推進懇談会)共催により、佐渡地域産学交流会を佐渡市アミューズメント佐渡で開催しました。

本学の研究紹介の他、先端技術の事業紹介や意見交換などを行い、15社40人が参加しました。



原副学長による大学紹介



富士電機株式会社木村氏による事業紹介

2. 第4回新潟産学官連携フォーラム～医工連携を可能とする大学のシーズとは～

県内の産学官のリーダーや実務担当者を対象に、11月20日(土)に第4回新潟産学官連携フォーラムが開催されました。本学を会場に、企業、大学、行政関係者177人が参加しました。医工連携をテーマに特別講演、学内施設見学ツアーの他、15件の地域医療連携活動のポスター展示など、具体的な課題について活発な意見交換が行われました。



学内施設見学ツアー



ポスター展示

3. 先進企業見学会

地域産学交流センターでは、新潟工科大学産学交流会会員企業を対象として、新規事業参入のきっかけ作りや相互の交流促進を目的に先進企業見学会を毎年開催しています。平成26年度は10月に福井県の(株)松浦機械製作所と(株)シャルマンを訪問しました。21人が参加し、これからのものづくりを変えられている金属の3Dプリンタや眼鏡(チタン)の加工技術を活かした医療器具の開発など普段見ることができない先進企業の技術を見学し、意見交換を行いました。



参加者による記念撮影



視察風景

創立20周年

教育研究の新しい取り組み
(平成26年度採択事業)

教育活動

学生生活活動

学生の表彰

地域貢献

産学交流

就職支援

インフォメーション

1. 就職のための保護者説明会の開催

平成26年度の新たな試みとして、在学生の保護者の方を対象にした「就職のための保護者説明会」を開催しました。7月は新潟市の新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター（デンカビッグスワン内）を会場に、11月は長岡市の長岡新産管理センターで開催しました。

現在の就職環境や就職支援体制、就職活動の具体的な進め方について説明したほか、企業の現役社長を迎え、“企業が求める人材像”をテーマにした講演、卒業生によるパネルディスカッション、個別相談会など、保護者の視点から見た就職活動の関わり方や取り組み方を知ってもらう良い機会となりました。



説明会の様子



本学から就職環境等について説明



現役社長による講演



卒業生のパネルディスカッション

2. 卒業生との懇談会

本学では社会人として働く意義や実際の仕事の状況、大学時代に学んだこととの関連等について在学生と卒業生が懇談し、今後の進路を考えることを目的に毎年開催しています。平成26年度は9月から11月にかけて、学科ごとに開催されました。

懇談会では、卒業生と内定を得ている4年次生をパネリストに迎え、就職したい業界や企業を選ぶ際の考え方、就職活動に対する心構えなど、先輩から後輩に向けて実体験に基づいた貴重なアドバイスを受けることができました。



質問する学生



先輩からの貴重なアドバイス



3. 業界研究

業界研究は、学部3年次生及び大学院1年次生を対象に、自分自身の専門分野や専門分野以外の業界について知見を深め視野を広げることにより、就職活動のあり方を再認識する機会として、6月～10月にかけて4回開催しました。

さまざまな業界の経営者、採用担当者などを講師に招き、業界の現状と動向、採用側から見た求める学生の人材像などについて学びました。また、本年度は、(株)帝国データバンクの支店長を講師に迎え、新たな切り口による魅力ある企業の見つけ方など幅広いアドバイスを受けました。



講演の様子

4. 就活WEEK

平成26年度から就職活動のスタートが3か月後ろ倒しになったことに伴い、学生の就職に関する意識を高めるため、2月3日(火)～6日(金)の4日間、集中的な就職ガイダンスとして、「就活WEEK」を開催しました。

初日は、会社説明会の雰囲気を感じるため柏崎市市民プラザを会場に、応募書類・自己PRの書き方やマナー講座が行われました。

2日目以降は学内に会場を移し、筆記試験対策講座、模擬面接、4年生の内定者とのパネルディスカッションなどを行いました。

最終日は、新潟県内の企業を中心に37社が参加し、各社の技術や事業内容、取り組みなどを学び自己の立ち位置を理解する「対話型企業技術・要素会」を行いました。



マナー講座



模擬面接



4年次生とのパネルディスカッション



対話型企業技術・要素会

5. 学内合同会社説明会

3月12日(木)、13日(金)に、本学講堂において平成28年3月卒業・修了予定学生を対象とした「学内合同会社説明会」を開催しました。新潟県内を中心に北陸や関東など、昨年の参加企業を大きく上回る161社の企業から参加いただきました。



教員保護者交流会

9月6日(土)に、教員保護者交流会を開催し約170人の保護者が参加しました。

各種施設やクラブ活動の見学、また、学生食堂では軽音楽部とプラスバンド同好会による演奏など、日頃の学生生活の雰囲気を感じてもらいました。

午後から後援会総会の他、学長保護者懇談会が開催され、本学から大学の近況や就職状況について報告し、最後に内定学生による就活体験談の発表会を行いました。その後、各学科に分かれての学科別交流会では、個別面談を通じて修学状況や学生生活、就職活動について意見交換を行いました。



後援会総会・
学長保護者懇談会



学科別交流会
(個別面談)

同窓会から電気自動車を寄贈

創立20周年の記念として、新潟工科大学同窓会から電気自動車が寄贈されました。

校用車として大学業務に活用する他、この電気自動車を用いて実測データを収集するなど、低炭素社会に向けたスマートコミュニティ研究への展開にも活用していきます。



寄贈された電気自動車
(三菱自動車 i-MiEV
(アイ・ミーブ))

新潟工科大学を支える産学交流会

●新潟工科大学産学交流会 【会員企業数 245社 (平成27年2月末現在)】

新潟工科大学産学交流会は、県内外の企業によって構成された本学の支援組織です。

平成2年9月、新潟県内の製造業経営者を中心に「新潟工科大学設立同盟会」が設立され、本学開学の推進力となりました。開学後は「新潟工科大学産学交流会」に組織変更し、職業実習(インターンシップ)、共同研究のほか、合同会社説明会、卒業生の就職においても本学を強力にバックアップしています。



会長 佐藤 功
佐藤食品工業株式会社
取締役会長



副会長 有沢 栄一
株式会社有沢製作所
特別顧問



副会長 吉岡 謙一
北越工業株式会社
取締役相談役